
ジャパン 番外編

みづき海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャパン 番外編

【Nコード】

N5282M

【作者名】

みづき海斗

【あらすじ】

連載中の『ジャパン』の番外編です。

(前書き)

『ジャパン』番外編です。

異国伝

その女性はもう何日も歩き続けていた。

森の中を、背後から襲ってくる兵を避けながら小さな赤子を抱いて。

「奥州平泉へ殿と逃げなされ、この関は我らが守る。」

常陸坊 海尊が武蔵坊 弁慶と源 義経、静御前にそう告げたのがつい先刻の様に思われる。

「出来るか、海尊。」

弁慶が尋ねると、海尊は、「我らは魔族。たかがこれしきのこと何の苦もないわ。『^{との}獣王』を頼む。」

「相判った。」

そして弁慶は2人を振り返り見て、「我らが守ってみせようぞ、

義経殿。静御前、殿の子は絶対に守らねばならぬ……いずれ『獣族』と

『魔族』と『人』とを繋ぐ架け橋となるであろう御子であるからな。

「

弁慶の言葉に従い、2人は藤原氏が気付いた奥州の都 平泉へと向かった。

しかし、そこには既に義経の兄 源 頼朝の放った兵が待ち構えていた。

「弁慶。」

端正な顔立ちの義経が、意を決したかの様に、

「私は兄に逆らう気など少しもなかった。しかし、兄 頼朝は私の中に流れる『獣族』の血を恐れている。」

「御意。」

「そして、お前たち『魔族』の者も。」

紅の武者姿の義経は武僧侶姿の弁慶に、「私は……この国を『魔族』も『獣族』も『人』も争う事ない国にしたかった。ただそれだけで兄に忠義を尽くしてきたが、それももういかぬらしい。できたら、せめてこの子だけでも……」

と、長い黒髪に旅姿の女性 静御前へと言った。

「静。」

義経は静の胸に抱かれた幼い我が子を見つめ、「この子を頼む。

私の代わりに守って欲しい。」

「そんな、義経様……」

静御前は激しく首を振った。「残すなどおっしゃらないで！この子は弁慶に任せます。私は最後まであなた様と！」

「それは出来ぬよ。」

弁慶は微笑し、静かに言った。「我らは『魔族』。この国でもまだ『魔族』と『獣族』とは相容れぬ……幼き時はそうでも、いつかは『獣族』の血を引くこの子が『魔族』の中で『目覚めたら』どうなさる？この子は殿の……『獣王』としての血を受け継いでいる。」

「弁慶……」

「この子には『人』の持つ暖かき心を持ってもらわねばならぬ。」

義経は微笑んだ。「それが出来るのはお前しかないのだよ、静。」

「その通りじゃ、義経殿。」

弁慶は笑い、「さて、我らの『潮時』が来たようだ。」

遠くから活声が聞こえてくる。

源 頼朝軍であつた。

「静。後は任せたぞ。」

義経は微笑んで、彼女に背を向けた。「大陸はどうだろうな、弁慶。」

「この国同様、まだ『魔族』と『獣族』が入り乱れていると聞き

まする。」

弁慶は先に行く義経の後をゆつくりと追い、寄り添った。

「一度、見てみたかったの、義経殿。」

「いつか、また見れるさ、弁慶。」

これから起こる事など、微塵も感じさせない和やかな談笑。

「義経様………！弁慶っ！」

静は叫んだ。

「逃げなされ、静殿。殿の為に。」

「楽しかったぞ、静。」

森の向こうには、既に兵が控えている。

それを承知で2人は歩いていく。

その姿が見えなくなる寸前、義経が一度だけ彼女に振り返った。

「生き延びよ、静！」

だから。

彼女は赤子を抱き、何日も森の中を兵を避けて逃げ廻った。

この『獣族』と『人』とを繋ぐ唯一の夢を守るために。

「あ………」

静は足を木の根にとられた。

胸に抱く我が子をかばいながら、木に手をやる。

水ももう何日も飲んでいない。

北斗七星と月の傾きだけが、彼女に『時間』を教えていた。

「もう、だめ………」

静はその木の根元に腰を降ろした。

彼女は『人間』、『魔族』や『獣族』ほど強くない。

そして。

自らの命の限界も感じていた。

天空を見上げると、無数の星が瞬いていた。

遠くからは、まだ人声と松明の灯りが点々と続いている。

「………」

静は懷から短刀を取り出した。

その白い布を解き、銀色の刃を満月の光に照らす。

「この子を」

静は、『闇』に向かって言った。「この子を頼みます。」

すると、何処からか、

「私でいいのなら。」

よく澄んだ声が聞こえてきた。

それを確かめ、静は微笑した。

彼女は愛おしそうに地に横たえ、無邪気な寝顔を見せる我が子を見つめ、

ザッ・・・

首筋に短刀を突き刺した。

途端、赤子が泣きだした。

追っ手をその場に呼び寄せる程の大きな声で。

何処から現れたのか、その長い黒髪の青年は赤子の元に舞い降り、死した彼女の手の上から幼子を抱きあげた。

「契約完了。」

紅の瞳で青年はそう彼女に告げた。

腕の中で、ふいに、赤子が泣きやんだ。

その碧色の丸い目でじっと、青年の顔を見つめている。

「『義経』と呼ぼう。」

紅の瞳の青年は異国の服を身に纏いそう言った。「旅に出るぞ、

義経――大陸だ。お前の父と我が一族弁慶が憧れていた。」

そして。

物語は始まる――遙か遠き異国の地を目指して。

（後書き）

あー、『夜叉 2』の原稿があああああ！！（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5282m/>

ジャパン 番外編

2010年10月17日02時35分発行